

わたしが飲む杯を飲み

マルコ 10 : 35 - 40



司祭 ヨハネ 井田 泉

2021年10月17日
聖霊降臨後第21主日

聖光教会にて

「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。』」 マルコ 10:39

これは今日の福音書で、イエスがヤコブとヨハネに言われた言葉です。

このヤコブとヨハネは兄弟で、二人ともガリラヤ湖の漁師でした。^{りょう}漁に使う網の手入れをしていたときにイエスに呼ばれて、父ゼベダイと雇い人たちを舟に残してイエスに従ったのでした。今日はそのゼベダイの子の兄のほう、ヤコブに関心を向けてみます。

ヤコブは弟ヨハネとともに主イエスに信頼され、ペテロとともに弟子たちの中のリーダー格、またイエスの側近ともいえるべき存在になりました。イエスさまの山の上での変容貌を見たのも、この三人です。

ヤコブとヨハネの兄弟は、イエスさまからあだなを付けられていました。「ボアネルゲス」——「雷の子ら」という意味です。時々彼らは憤りを爆発させることがあったのでしょう。

さて今日の福音書の場面は、イエスがすでにご自身の受難を覚悟して、まっすぐにエルサレムに向かわれる途中の出来事です。

今日の直前の箇所ではイエスは次のように言われました。

「今、わたしたちはエルサレムへ上^{のぼ}って行く。人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告し

て異邦人に引き渡す。異邦人は人の子を侮辱し、唾をかけ、鞭打ったうえで殺す。そして、人の子は三日の後に復活する。」

マルコ 10:33 - 34

弟子たちは恐れました。イエスは迫害と死に向かってまっすぐに進んでおられる。ほんとうにイエスは捕らえられて死なれるのか、殺されるのか。自分たちはどうなるのか。主イエスを失ったとしたら、どうして自分たちは生きていけるのか。

そうしたときです。ゼベダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、イエスに言いました。

『先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが。』イエスが、「何をしてほしいのか」と言われると、二人は言った。『栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。』 10:35 - 37

「ゼベダイの子ヤコブとヨハネが進み出て」

「進み出て」という言葉に、彼らの切迫感と決意が現れています。

イエスと一緒にいたいのです。たとえイエスが死なれ、自分たちも死ぬことになったとしてもイエスと一緒にいたい。イエスのすぐそばにおらせてほしい。

「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。」

イエスが栄光を受けられるとき、主の右と左に座らせてほし

い、と言います。彼らは高い地位を求めたのでしょうか。それなら、この願いはイエスの思いに反するものです。そこは反省させなければなりません。けれども、たとえ地上的人間的な思いが混じっていたとしても、どこまでもイエスと一緒にいることを願っている二人の気持ちは、無視できません。

「イエスは言われた。『あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっていない。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか。』」 10:38

「このわたしが飲む杯を飲むことができるか」

イエスは、杯を飲むと言われます。イエスが飲まれる杯とは何でしょうか。それは苦難の杯です。それを飲めば死ぬ死の杯、毒の杯です。杯も洗礼も、イエスが受けようとされる苦難の象徴です。

「このわたしが飲む杯を飲むことができるか」

「できます」と二人はイエスに答えました。

イエスの飲まれる杯を自分たちも飲むことができる。死ぬことができる、ということです。

ヤコブもヨハネも、死んでもイエスと共にいる決意であることを、イエスは理解されました。彼らのうちにある真心を感じつつ、地位を求めるような誤った思いを、イエスは清めていかれます。

「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。しかし、わたしの右や左にだ

れが座るかは、わたしの決めることではない。それは、定められた人々に許されるのだ。」 10:39 - 40

それからまもなく、イエスと弟子たちはエルサレムに入城されました。木曜日の最後の晩餐のとき、イエスは杯を取って感謝の祈りを唱え、弟子たちに渡されました。弟子たちは皆、その杯から飲みました。ヤコブとヨハネも、イエスの杯を飲んだのです（マルコ 14:23）。

その後、イエスはオリーブ山のゲッセマネに行き、苦しみもだえて祈られました。

「父よ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように。」 マルコ 14:36

その夜、イエスは捕らえられました。弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げてしまいました。ヤコブとヨハネも逃げました。あの時、「できます」と言ったのに、二人はできなかった。彼らはイエスの飲まれる杯を飲むことができなかったのです。

イエスのご自身が予告されたとおり、死刑の宣告を受け、鞭打たれて、殺されました。ご自分の杯を飲まれたのです。

しかしそれで終わったわけではありません。イエスは三日目によみがえり、ご自分が生きていることを示して弟子たちを励まされました。弟子たちは集まって熱心に祈り、イエスを宣べ伝

えました。弟子たちと共に主イエスがおられて、共に働かれました。

それから 10 年あまり後、使徒言行録はあのヤコブについてこのように記しています。

「そのころ、ヘロデ王は教会のある人々に迫害の手を伸ばし、ヨハネの兄弟ヤコブを^{つるぎ}剣で殺した。……それは、除酵祭の時期であった。」 12:1 - 3

除酵祭の時期、つまりイエスが捕らえられて殺された同じ時期に、あのヤコブはヘロデ王の迫害を受け、剣で殺されました。彼は 12 弟子のうちで最初の殉教者となりました。このとき、イエスはヤコブと共におられました。ヤコブは主の間近にいたのです。

あの時、「(イエスの飲まれる杯を飲むことが) できます」と言い、イエスが「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲む」と言われた言葉のとおり、ヤコブはイエスの飲まれた苦難と死の杯を飲んだのです。

今日わたしたちがヤコブから学ぶべきことは何でしょうか。それは、主イエスと共にいたい、という願いです。元気なときも弱ったときも、順調なときも困難なときも、生きる時も死ぬときも、主イエスと共にいたい——その願いです。主イエスは、わたしたちと共にいようと決意しておられます。

祈ります。

主イエスさま、どうかわたしたちをあなたと共におらせてください。たとえわたしたちのいただく祝福の杯が、時に苦難の杯となることがあったとしても、あなたの傍らにおらせてください。あなたのうちにこそ、わたしたちの命と希望があるのですから。アーメン